

「シキミ」

佐々木真理

広大マスターズの「学問の散歩道」の中の「万葉の植物たち」をのぞいてみました。
(実際の講座になかなか行くことができないので、こういうのがあると嬉しいです！)
<参照>http://hirodaimasters.web.fc2.com/sanpomichi/sanpo_top.html
講義の詳細は書いてないので、自分で調べて楽しみました。

ー以下長文ー

万葉集で詠まれている植物のうち、実際の講義では25種の植物について紹介されたようですが、「学問の散歩道」では7種類の万葉植物に万葉歌を添えて紹介してあります。

私が特に興味をそそられたのが「櫛（シキミ）」です。

関西では「シキビ」と呼ばれています。（こちらの方が私には馴染みがあります。）

仏前に供える木で、仏事に用いられます。ちなみに、神事に用いられる木は「榊（サカキ）」です。

櫛は、全株（花・葉・実・根から茎に至るまで全て）が毒成分を含み、特に実は毒性が強く、食べたら死に至ることもあることから「悪しき実」とされ、そこから「シキミ」となったという説があります。

葉や樹木を燃やすと、死臭も消すほどの強い臭いを放つため、古代から墓や仏に供えられたそうです。そうすると、「悪しき実」というよりも「清め」になっているのでは？とも考えられるような・・・。

それにしても、

『 ちょっと臭ってみたい 』

シキミに当てられた漢字を見ても、何やら密教に関係あり？とも思われるし、この「木」の「秘密」!! ヤバそうな臭いも感じます。

この特に毒性の強い実の部分は、八角に似ていることから誤って輸出され、ドイツで中毒事件も発生したことがあったようです。八角の英語名は「スター・アニス」で、シキミの英語名は「ジャパニーズ・スター・アニス」。どうしてこんな名前を付けたのでしょうか？これは間違えますよね！

そんな危険なシキミは、なんと！

『 「毒物及び劇物取締法」により、植物で唯一「劇物」に指定』

されています。劇物は化学物質が指定されるため、生物や植物は普通指定されることはない（ブリタニカ国際大百科事典）そうで、「ふぐ」「スズメバチ」「トリカブト」なんかもこれらのために死亡する人が多いですが、指定されていません。しかしシキミは、その実が食用の八角に酷似だったり、容易に入手できたりし、実際事故が多いため指定されているとか。

こんな危険なのに野放しになって、そこいら辺に生えて、榊と並んで売られて、良いの？(°Д°) 処罰対象は「種の販売」だそうです。

ちなみに、シキミを挿した水は腐りにくいのだそうです！

さて、こんなヤバイ植物を詠んだ歌ってどんな歌？万葉集でシキミを詠んだ歌は下記のただ一首だけです。

「奥山の櫛が花の名のごとや ししく君に恋い渡りなむ」

訳：奥山に生える櫛という花の名のように、しきりとあの方を慕い続けましょう。

「シキミ」と「ししく」を掛けてる・・・らしい・・・？
私的には、ふ～ん・・・って感じなのですが、講義ではどのような解説がされたのでしょうか？

ずっと愛し続けてしまうくらいの中毒性？

あの方のために死ぬる、あの方とあの方まで行きたい（シキミによって）？

歌よりも、この「シキミ」という植物に相当興味が湧きました！

万葉集といえば、この歌↓が大好きです。

「あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る」 by 額田王

理由は二つ。

1. 額田王が好きである
2. ソデフリンの由来になっているから

ソデフリンというのは、アカハライモリのオスが出すフェロモン。アカハライモリは尻尾を振って求愛することから、求愛＝袖振る＝ソデフリンと名付けられたそうです。

このフェロモンを発見し、こんな粋なロマンチックな命名をした生物研究者って誰だろうと調べたけれど分かりませんでした。

調べている最中に、また面白い記事を見つけました。

『日本獣医生命科学大学とその共同研究グループが、雄イモリに性的魅力をアピールする雌のフェロモンを発見（2017年1月26日）』

・・・つい最近！！！！

アイモリン(imorin)と名付けたそうです。古語で「イモ(妹)」は「恋人・妻」を指し、「リン」は「ソデフリン」のリンだそうです。

こちらもやはり、雅に攻めてみたのですね！！！！

「佐々木、感激！」

長文失礼いたしました。

この「広大マスターズ」のHP、興味があったらご覧になってみてください～！

(2017. 2. 16)